



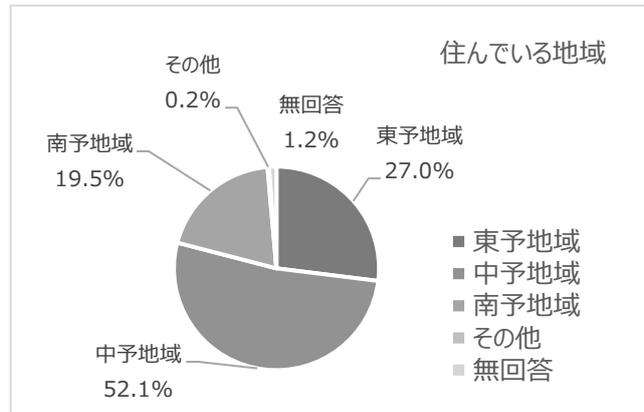
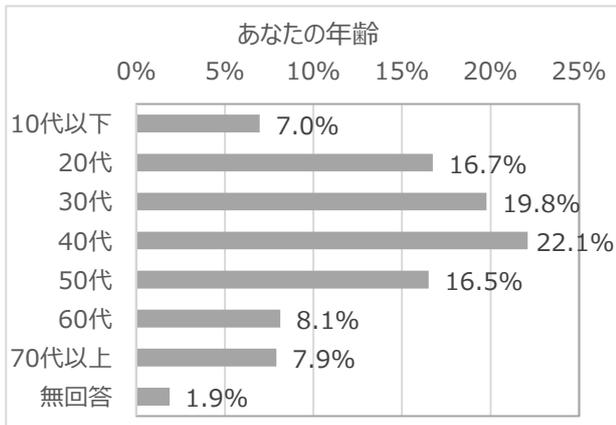
令和2年度文部科学省
「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業

共に学ぶコミュニティ形成実践研究事業
「学びと共生社会に関するアンケート調査」
報告書

1. 調査名：「学びと共生社会に関するアンケート調査」
(文部科学省「令和2年度障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」として実施)
2. 調査実施団体：NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構
3. 対象：障害者当事者（代筆及び代理回答も可）
4. 調査期間：2020年11月・12月
5. 回答者数：430人

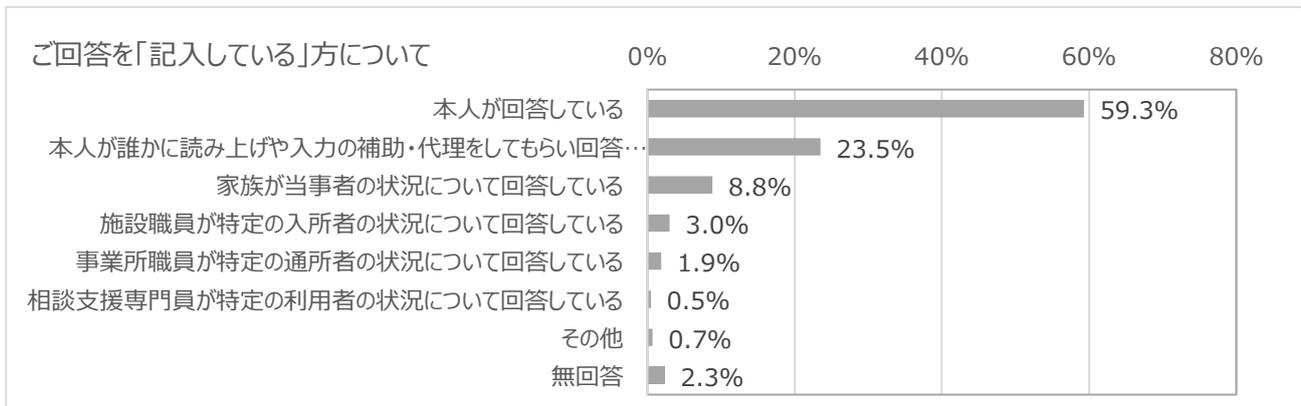
1. 回答者の年齢や住所地

10代から70代以上の幅広い年代から回答を得た。住所地についても、東予27.0%・中予52.1%・南予19.5%となっており、人口比に即した地域別の回答数が得られた。



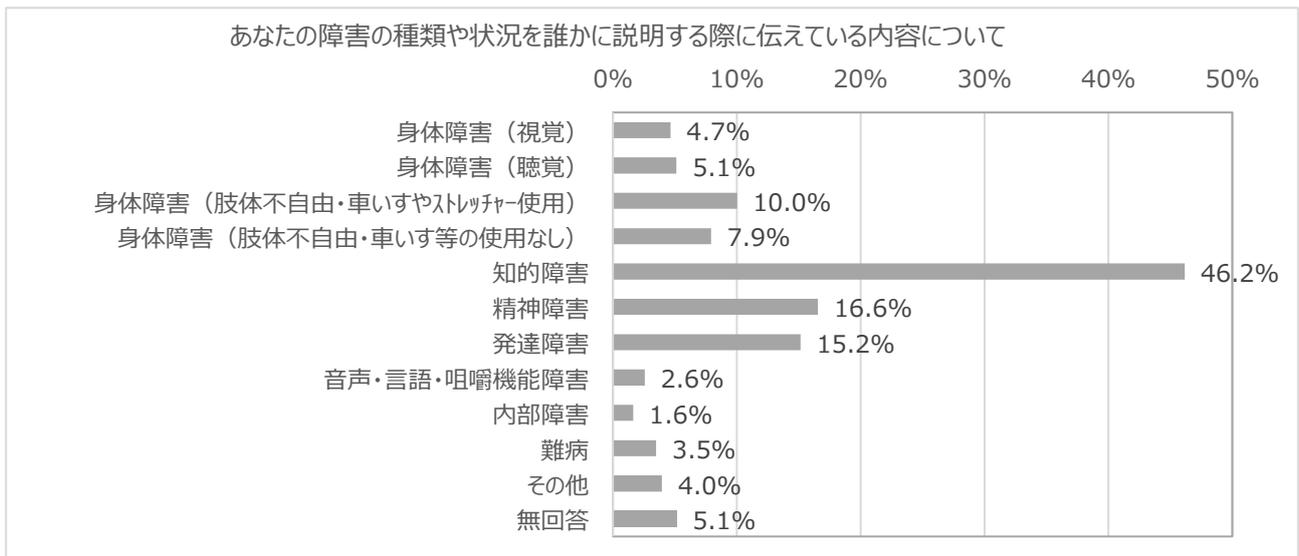
2. 回答方法

本人の回答が最も多く、次いで何かしらのサポートを受けて回答している者が多かった。

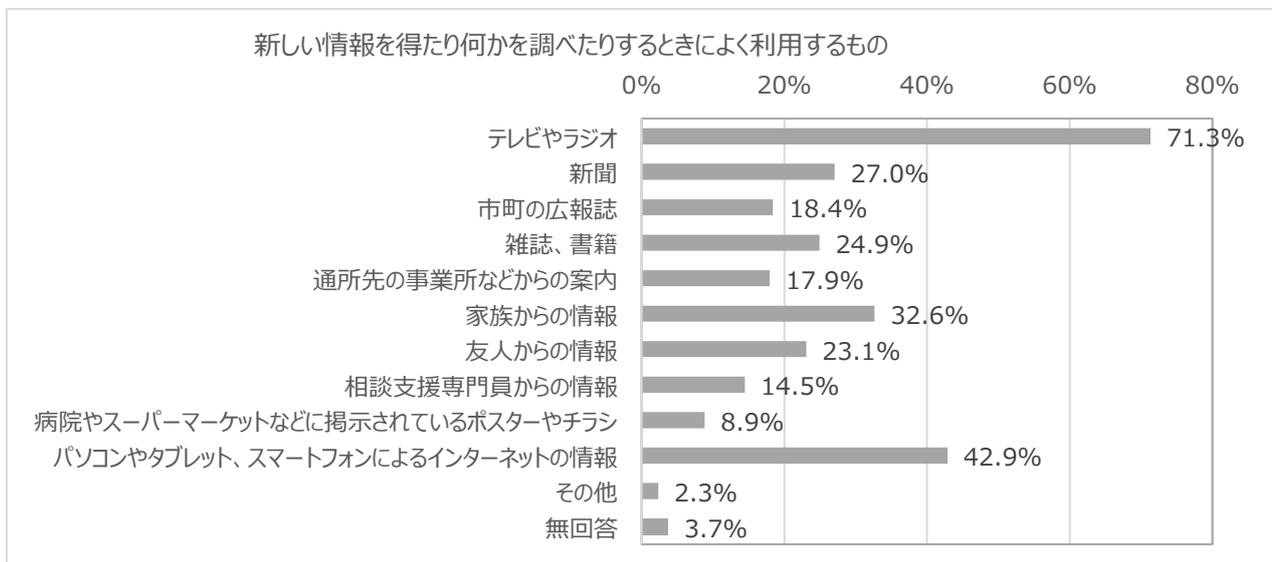


3. 障害の種類

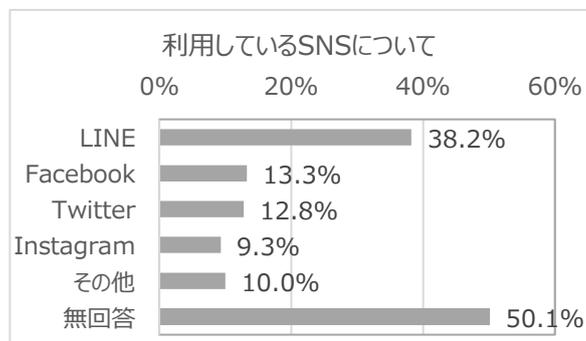
障害種別では、知的障害のある者が46.2%と最も多かった。複数の障害を持っている者も多いが、全ての障害にわたる回答があった。



4. メディア利用状況



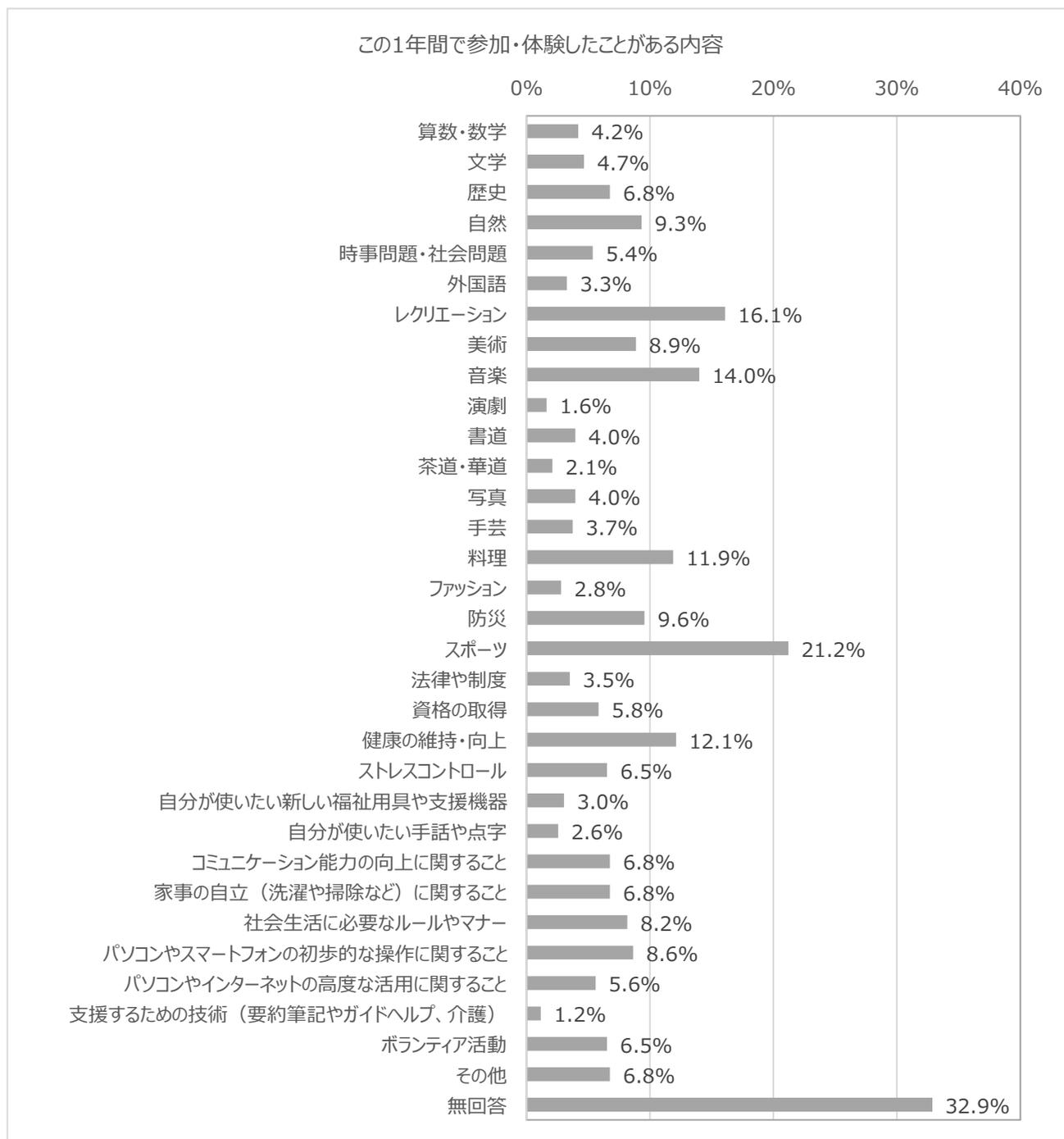
新しい情報を得る際の利用メディアとしてはテレビが最も多く、次いでパソコンやタブレット、スマートフォンをよく利用している。



SNSの利用状況をたずねたところ、38.2%がLINEを利用しており、ICT活用が広がっていることがうかがえる。ただし、ICT活用に関しては年代による差が大きく、10代・20代のインターネット利用は平均67.2%、30代～60代は平均37.0%、70代以上では20.6%となっており、情報を発信する際には、年代によって利用メディアが異なることに留意する必要がある。

5. 学習活動状況

この1年間で取り組んだ内容について尋ねたところ、スポーツ（21.2%）が最も多く、次いでレクリエーション（16.1%）、音楽（14.0%）が続く。

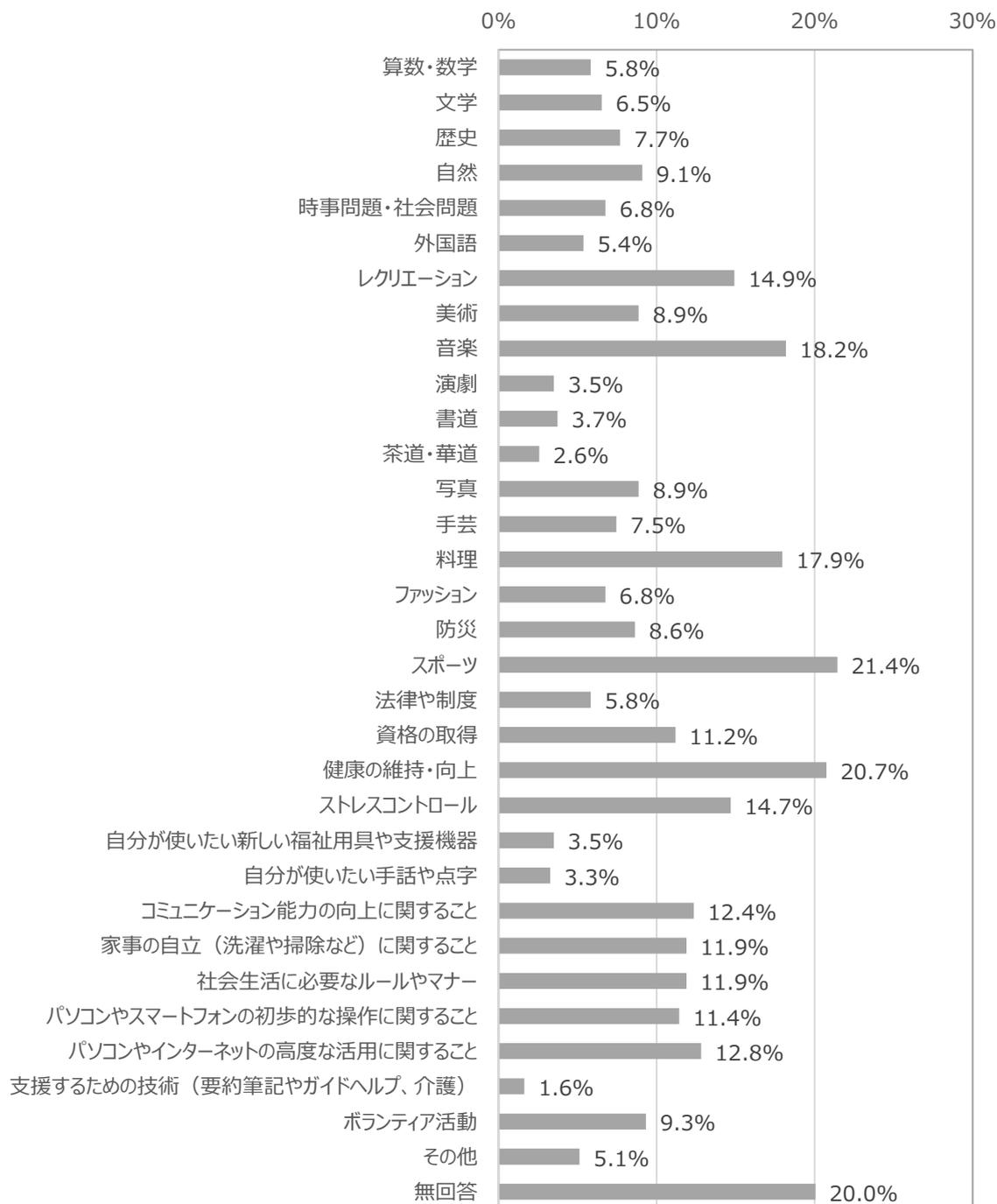


同じ選択肢を用いて、「これから参加してみたいもの」を尋ねたところ、最も多いのはスポーツ（21.4%）で実施状況と同一であったが、次いで「健康の維持・向上」が20.7%と希望が高い。3番目に多いのは音楽（18.2%）で実施状況より4ポイント高く、4番目に多い料理（17.9%）は実施状況より6ポイント高い。

ストレスコントロール、コミュニケーション力の向上、家事の自立などについては、実施状況の二倍近い希望があり、身近な生活上の課題に関する学習の機会を作っていく必要がある。また、資格の取得や高度なICT活用技能に関する内容も実施状況と希望状況の差が大きい。

幅広い関心分野について、学習機会を作っていく必要がある。

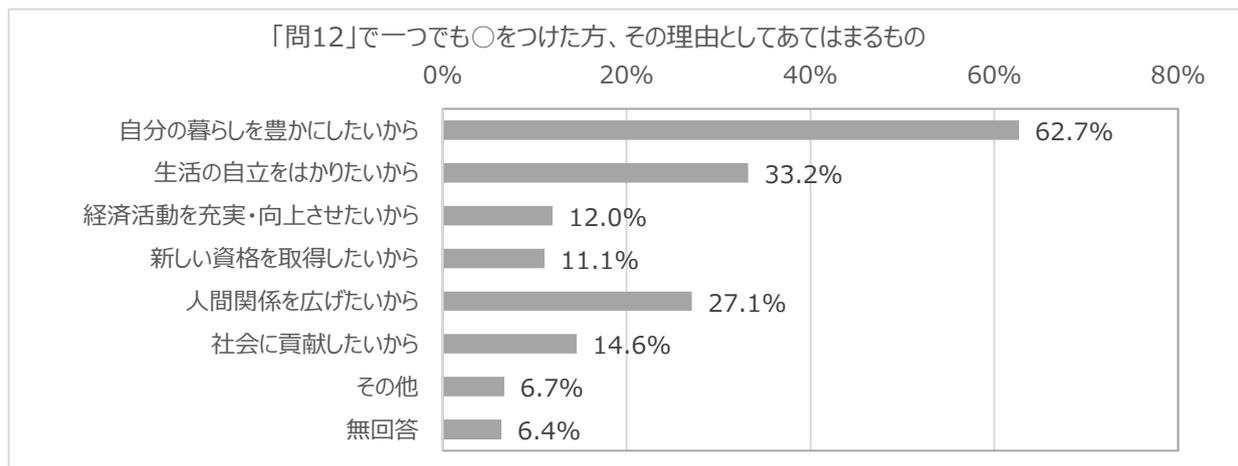
今後希望する学習・体験内容



なお、「参加・体験」の経験に関する質問に対して無回答だった者は 32.9%、希望に関する質問に対して無回答だった者は 20.0%。今はまだ学習活動に参加していないが、今後なんらかの活動への参加を希望する者が1割存在するととらえる必要があるのではないだろうか。

6. 学習活動に参加する動機

前項の質問に対して一つでも○をつけた者を「学習希望者」とし、その理由を尋ねた。最も多いのは「自分の暮らしを豊かにしたいから」(62.7%)、次いで多いのが「生活の自立をはかりたいから」(33.2%)、「人間関係を広げたいから」(27.1%)となっている。



なお、この「動機」については、当然ながら年代や障害種別によっても傾向が異なる。とりわけ「人間関係の広がり」についての期待度は差があるため、学習形態での配慮が求められるところである。

7. 学習への参加を阻害する要因

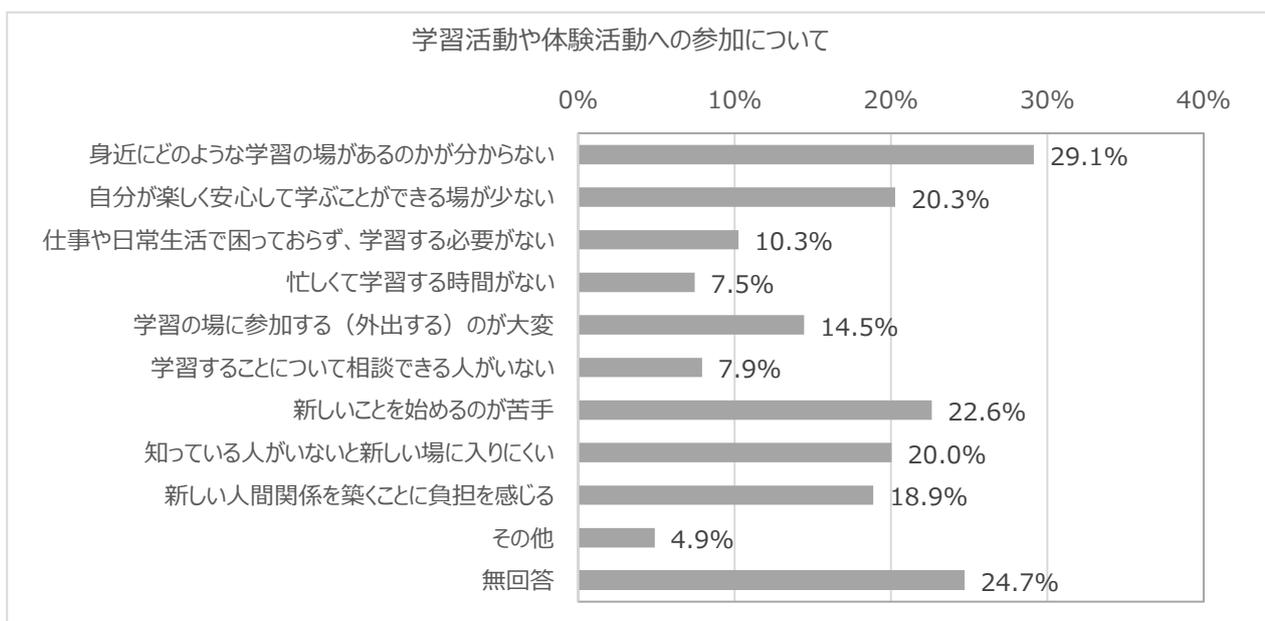
学習活動に取り組みにくい、あるいは取り組まない理由を尋ねた。

約3割の者が身近な学習の場を知らず、情報提供の充実が求められる。

また、新しいことを始めることへの苦手意識や慣れない環境への不安感、新しい人間関係を築くことへの負担感を抱いている者も約2割いるため、「求めてはいるが苦手」なのか「なるべく避けたい」と思っているかを丁寧に聴き取り、サポートする視点が必要である。また、現在築いている「安心できる環境・人間関係」を基盤にした学習機会の提供も求められる。

また、学習の場に参加することの難しさ（14.5%）をうったえる声については、福祉制度利用での支援も検討する必要がある。

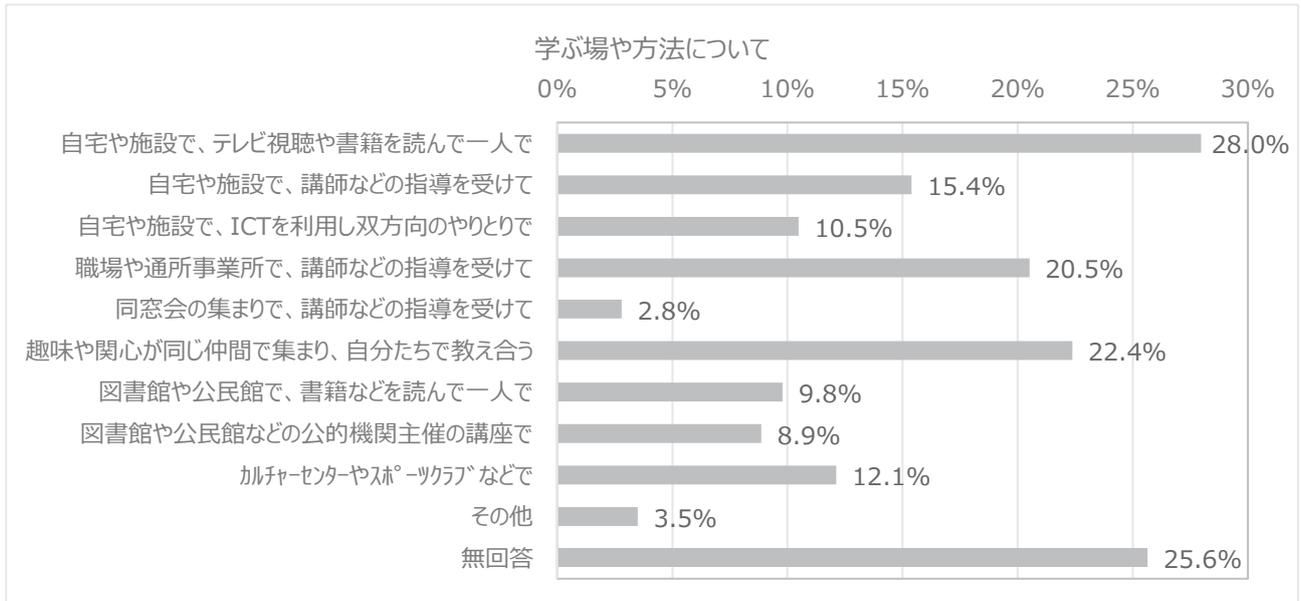
なお、約1割の「学習する必要がない」という声についても尊重しつつ、啓発を行っていききたい。



8. 学習形態・方法への希望

前項で示された阻害要因と表裏一体の内容にあたるものでもあるが、どのような方法で・誰と学びたいか

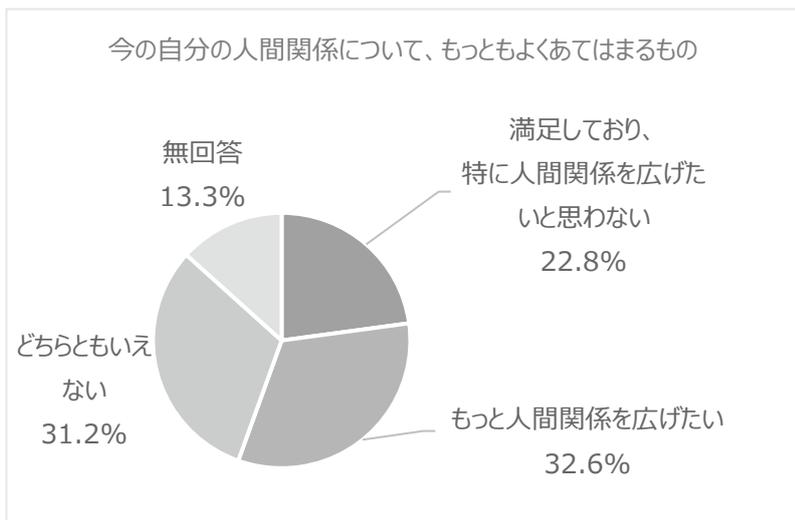
という希望について尋ねた。



最も多いのは自宅や入所先の施設でテレビ視聴や書籍を読んで一人で学びたい（28.0%）だった。次いで多いのは趣味や関心が同じ仲間での教え合い（22.4%）、職場や通所している事業所で講師から指導を受けての学び（20.5%）が続いた。ICTの利用や図書館・公民館での学びについてはなじみがないせいか、約1割程度にとどまる。前項と同じく、自分のペースを守りながら安心できる環境、人間関係の中での学びを希望している傾向が確認できた。

9. 人間関係への思い

現在の人間関係をどう感じているかを尋ねたところ、最も多いのは「もっと人間関係を広げたい」（32.6%）という声だった。ただ、「どちらともいえない」（31.2%）という者も同じぐらいの人数いて、先述した「人間関係づくり」への複雑な心情がうかがえる。



また、「満足していて特に広げたいと思わない」（22.8%）とはっきり感じている者もいる。これは70代以上で特に多く、41.2%となっていた。

下表の数値からは、10代は人間関係を広げることへの希望が強く、70代以上ではその思いがないことが分かる。

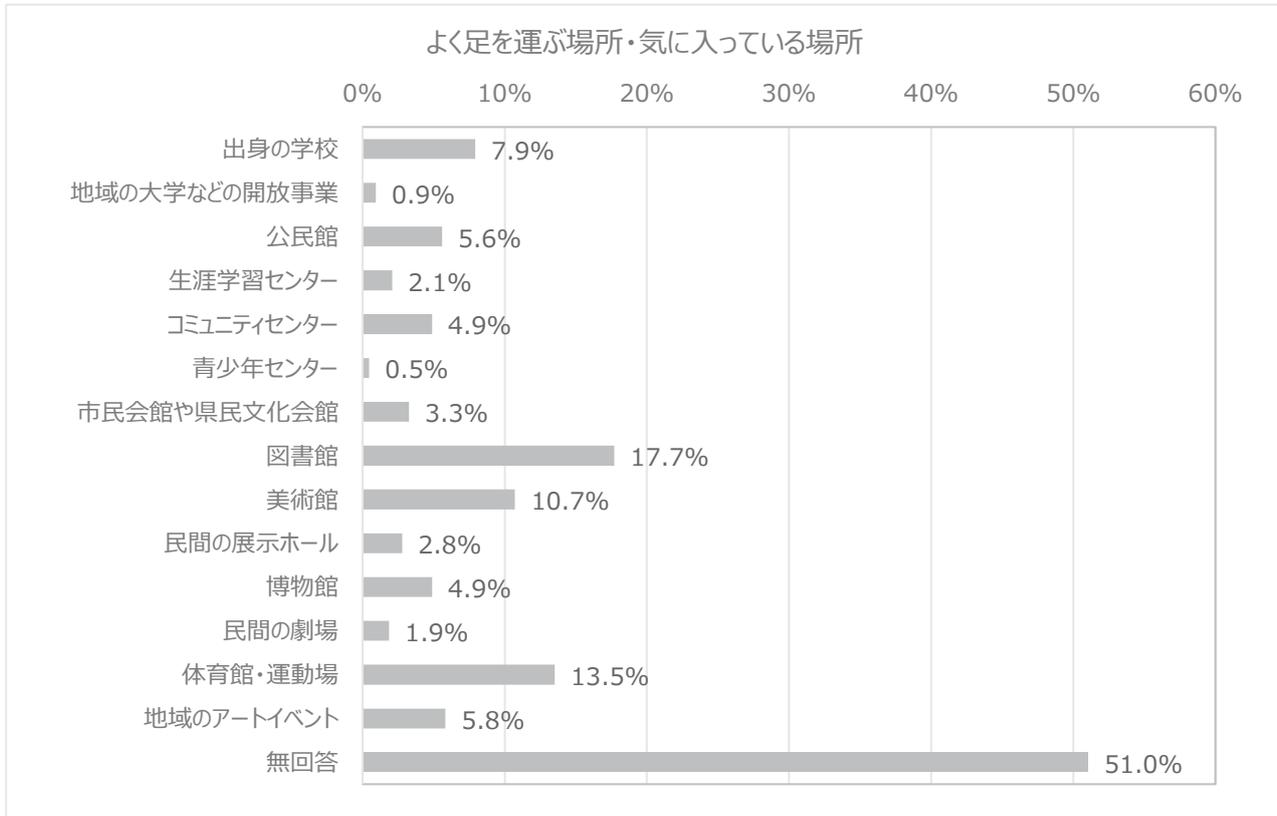
若い世代の希望をかなえる機会を増やしていくとともに、適切なサポートを実施したい。

	年齢													
	1		2		3		4		5		6		7	
	10代以下		20代		30代		40代		50代		60代		70代	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1 満足しており、特に人間関係を広げたいと思わない	6	20.0%	9	12.5%	19	22.4%	21	22.1%	20	28.2%	9	25.7%	14	41.2%
2 もっと人間関係を広げたい	14	46.7%	23	31.9%	29	34.1%	37	38.9%	20	28.2%	6	17.1%	7	20.6%
3 どちらともいえない	6	20.0%	33	45.8%	26	30.6%	23	24.2%	23	32.4%	15	42.9%	6	17.6%
無回答	3	10.0%	7	9.7%	11	12.9%	14	14.7%	8	11.3%	5	14.3%	7	20.6%
計	29	96.7%	72	100.0%	85	100.0%	95	100.0%	71	100.0%	35	100.0%	34	100.0%
回答者	30		72		85		95		71		35		34	

10. 立ち寄り先

学校や社会教育施設、文化施設等を挙げ、よく足を運ぶ場所・気に入っている場所を選択してもらった。一つも〇がついていない者は 51.0%にのぼり、半数の者にとってこれらの施設が親しみのある場所になっていないことが推察される。

比較的多いのが図書館（17.7%）、体育館・運動場（13.5%）で、全世代共通であった。



施設のハード面での関係からか障害種別で見ると利用状況にばらつきがある。

障害の種別や年代を問わず地域の教育・文化施設が誰でも気軽に立ち寄ることができる場所になるよう、施設の整備を進めるとともに、職員の対応力の向上、プログラムの充実も進めてほしい。

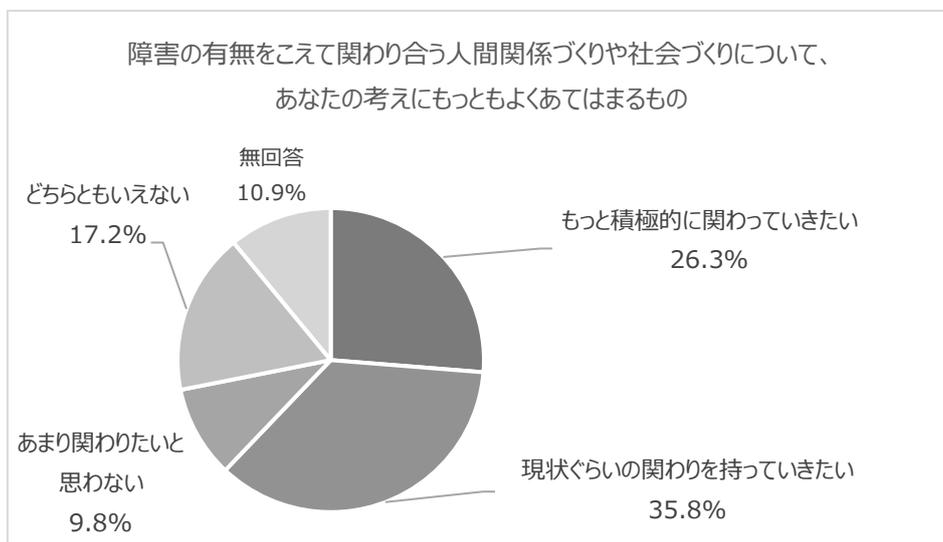
%	障害種別										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	身体障害 (視覚)	身体障害 (聴覚)	身体障害 (車いす等使用)	身体障害 (車いす等不使用)	知的障害	精神障害	発達障害	音声・言語・咀嚼機能障害	内部障害	難病	その他
1 出身の学校	0.0%	9.1%	4.7%	2.9%	10.6%	4.2%	16.9%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%
2 地域の大学などの開放事業	0.0%	0.0%	2.3%	2.9%	0.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3 公民館	5.0%	4.5%	4.7%	11.8%	6.6%	5.6%	4.6%	18.2%	0.0%	0.0%	11.8%
4 生涯学習センター	10.0%	0.0%	0.0%	8.8%	1.0%	2.8%	0.0%	9.1%	0.0%	13.3%	0.0%
5 コミュニティセンター	0.0%	0.0%	2.3%	5.9%	5.6%	7.0%	7.7%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
6 青少年センター	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.5%	1.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7 市民会館や県民文化会館	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	2.8%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%
8 図書館	5.0%	9.1%	9.3%	8.8%	17.2%	23.9%	24.6%	0.0%	57.1%	13.3%	23.5%
9 美術館	15.0%	9.1%	16.3%	14.7%	7.6%	15.5%	16.9%	18.2%	14.3%	6.7%	5.9%
10 民間の展示ホール	0.0%	4.5%	4.7%	2.9%	2.5%	2.8%	3.1%	0.0%	0.0%	6.7%	5.9%
11 博物館	10.0%	0.0%	7.0%	5.9%	3.0%	5.6%	9.2%	0.0%	14.3%	6.7%	5.9%
12 民間の劇場	5.0%	0.0%	4.7%	2.9%	1.5%	2.8%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%
13 体育館・運動場	25.0%	27.3%	16.3%	17.6%	11.1%	11.3%	9.2%	9.1%	0.0%	33.3%	17.6%
14 地域のアートイベント	5.0%	13.6%	4.7%	2.9%	6.6%	8.5%	4.6%	9.1%	0.0%	6.7%	0.0%
無回答	50.0%	54.5%	48.8%	61.8%	52.5%	49.3%	40.0%	63.6%	42.9%	20.0%	64.7%
計	145.0%	131.8%	125.6%	152.9%	130.3%	145.1%	144.6%	136.4%	128.6%	106.7%	158.8%

11. 共生社会づくり

障害の有無をこえた関わり合う人間関係づくり・社会づくりについての考えを尋ねた。

26.3%の者がもっと積極的に関わっていききたいと感じ、35.8%の者が現状ぐらいの関わりを維持したいと考えていた。これらを合わせて「関わる気持ちがある」群とみなすと、約62%の者が共生社会の担い手となる意向を持っているととらえることができる。

消極的な者(9.8%)の存在、判断しにくく感じている者(17.2%)の存在に配慮しつつ、共生社会づくりに意欲を高めている者が力を発揮する機会を積極的につくっていききたい。



本調査の結果から、ICTの活用が若い世代を中心に進んでいることが確認されました。生涯学習に関する情報発信も、対象に合わせた内容・方法を検討する必要があります。

学習内容については幅広いニーズがあり、既存の学習内容にとどまらず、新しいことにも取り組めるよう学習機会の提供を進めていきます。その際、新しいことへの挑戦や新たな人間関係づくりが得意ではないと感じている者が多いことを忘れず、学習環境に配慮していききたいと思えます。

また、地域の文化施設や社会教育施設の多くは、障害者にとって親しみのない場所であることが分かりました。今後は、施設の側から「広く市民に開かれた場所であること」を積極的に伝えていってもらい、また、障害者や支援者の側も意識して足を運ぶ機会を増やしていくことも必要です。

共生社会への考えは、人それぞれです。現状に不満を感じ、変えたいと感じる者。新しい社会の姿を夢描いて担い手になりたいと意欲を燃やす者。自分のペースを守りたい者。それぞれの願いを実現できる社会でなければなりません。

今回の結果を、社会教育関係者、障害者福祉関係者、特別支援教育関係者、そして障害者自身がそれぞれの立場から活動に反映してくださることを願います。そして、障害の有無をこえて共に学び、共に過ごすことがあたりまえの社会となるよう、地域教育のつながりとかかわりによって多彩な実践に取り組み続けて参ります。

2021年3月

NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構



【発行】

NPO法人 えひめ子どもチャレンジ支援機構

〒791-1136 愛媛県松山市上野町町甲 650

愛媛県生涯学習センター内

E-mail ko.tomonimanabu@gmail.com